令和8年度 若年性認知症支援コーディネーター研修（初任者）
概　要

１．目的

若年性認知症支援コーディネーター研修（初任者）（以下、研修）の目的は次の３点とする。

①若年性認知症支援コーディネーター（以下、支援コーディネーター）に求められる基本的な知識や視点を習得する。

②当該都道府県・指定都市（以下、都道府県市）の支援環境の現状と課題について理解する。

③支援コーディネーターと都道府県市等担当者の関係づくりを促進する。

２．対象

研修の対象者は、支援コーディネーター（候補者を含む）と都道府県市担当者とする。なお、支援コーディネーターと都道府県市担当者が協働で地域での支援体制を構築することが必要であることから、支援コーディネーターと都道府県市担当者の両者での参加を原則とする。ただし、支援コーディネーター、都道府県市担当者のどちらかが既に初任者研修を修了している場合にはその限りではない。初任者研修修了者の再受講も可能とする。

３．研修カリキュラムの内容

研修は、２日間のプログラムとする。
１日目は講義中心で基本的知識や視点について学び、２日目はグループワークを中心に実践力の向上を目指すとともに支援の流れを把握する。研修の柱は大きく４つとする。

Ⅰ．若年性認知症施策と若年性認知症支援コーディネーターの役割

若年性認知症施策の動向について理解するとともに、支援コーディネーターが求められる背景やその役割について理解を深める。

Ⅱ．実践報告

都道府県市における支援コーディネーターの活動を促進するため、多くの実績を有する都道府県市からの実践報告を通し、活動内容や今後の課題等について学ぶ。

Ⅲ．若年性認知症の人と家族への支援

若年性認知症の人やその家族を支援するうえで必要となる基本的知識を習得する。
具体的には、ご本人の対談を通して本人や家族の思いに触れるとともに、若年性認知症に関する医学的知識、若年性認知症の人や家族への支援、利用できる制度・サービスについて学ぶ。

Ⅳ．若年性認知症の人と家族への支援の実際

事例の共有、模擬演習などのグループワークを取り入れながら、若年性認知症の人や家族への就労継続における支援方法やソフトランディングの視点について理解を深める。